

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・B P・その他の別
一般国道58号	北谷拡幅	L=4.3km	2次改築	現拡

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
93,800	8	沖縄総合事務局

① 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成23年度		
単純合計	224億円	24億円	248億円
基準年における 現在価値(C)	155億円	6.3億円	161億円

② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成23年度			
供用年	平成36年度			
単年便益 (初年便益)	56億円	2.6億円	-0.74億円	58億円
基準年における 現在価値(B)	736億円	36億円	-9.9億円	762億円

③ 結果

費用便益比(事業全体)	4.7
経済的純現在価値(事業全体)	600億円
経済的内部収益率(事業全体)	13.9%

注) 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感度分析 (残事業を対象)

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比(B/C)
交通量	93,800台/日	±10%	2.4~5.2
事業費	224億円	±10%	4.3~5.3
事業期間	12年	±20%	4.2~5.2

交通状況の変化

様式-3①

事業名：北谷拡幅

(推計時点 H42年)

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 [北谷拡幅： 4.3km]	交通量	[台/日]	82,900	93,800	
	走行時間	[分]	13	9.9	
	走行時間費用	[億円/年]	195	171	
②主な周 辺道路	国道330 号 ：3.7km	交通量	[台/日]	63,400	58,400
		走行時間	[分]	13	13
		走行時間費用	[億円/年]	148	129
	県道130 号 ：2.0km	交通量	[台/日]	36,400	34,200
		走行時間	[分]	5.9	5.6
		走行時間費用	[億円/年]	38	34
	県道85号 ：2.4km	交通量	[台/日]	29,200	25,500
		走行時間	[分]	3.7	3.5
		走行時間費用	[億円/年]	19	16
③その他道路合計 延長：1.371km	走行時間費用	[億円/年]	7,354	7,345	

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：1,383km	走行時間短縮便益	[億円/年]	7,753	7,695	59

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること



費用便益分析の条件

事業名：北谷拡幅

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)	<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他	<input type="checkbox"/>	
分析の基本的事項	分析対象期間	50年	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	平成23年度	
交通流の推計時点	1時点のみ推計	<input checked="" type="checkbox"/> (H42)	
	複数時点での推計	<input type="checkbox"/>	
推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	<input checked="" type="checkbox"/>	
	整備の有無のいずれかのみ推計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
いずれかのみ推計の場合		いずれかのみ推計とした理由を記載	
推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	<input checked="" type="checkbox"/> (H17センサス)	
	パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	<input type="checkbox"/>	
	その他()	<input type="checkbox"/>	
開発交通量の考慮	無	<input checked="" type="checkbox"/>	
	有	<input type="checkbox"/>	
	有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数) ()台トリップ/日 考慮した理由を記載	
配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	転換率式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	Q-V式と転換率式の併用による配分	<input checked="" type="checkbox"/>	
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法の採択理由	小規模事業である	<input type="checkbox"/>
		山間部海岸部で併行道路が少ない	<input type="checkbox"/>
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)			
その他()		<input type="checkbox"/>	
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定	<input checked="" type="checkbox"/>	
	採用理由を記載 交通量が、交通容量(Qmax~Qmin)以上の路線、交通容量程度の路線等が混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。		
	最終配分の速度	<input type="checkbox"/>	
	採用理由を記載		
その他()		<input type="checkbox"/>	

交通流推計

(3)

項目		チェック欄		
便益の算定	休日交通の影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	面的に考慮	<input type="checkbox"/>
			対象路線のみ考慮	<input type="checkbox"/>
		採用した休日係数 () % 休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載		
	災害等による通行止めの影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	採用した通行止め日数 () 日 採用した通行止め日数の考え方を記載	
	とり止め交通を考慮する とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載		<input type="checkbox"/>	
	冬期交通の影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
考慮する		<input type="checkbox"/>		
考慮する場合のみ		採用した冬期日数 () 日 採用した冬期日数の考え方を記載		
		冬期の走行速度と交通容量の関係 設定の考え方を記載		
交通流推計の時点以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	<input checked="" type="checkbox"/>		
	その他 ()	<input type="checkbox"/>		
車種別時間価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
車種別走行経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
交通事故減少便益算定	中央分離帯の有無を考慮	<input checked="" type="checkbox"/>		
	中央分離帯の有無を考慮しない	<input type="checkbox"/>		
走行時間短縮・走行経費減少・交通事故減少以外の便益	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
	考慮する (考慮の場合、算出根拠を添付すること)	<input type="checkbox"/>		
その他				

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

年次		年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
					単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
					採用単価の根拠 一般国道(直轄)			
					単価(億円)	延長(km)	単純価値(億円)	
					0.11	4.3	0.49	
-12年目	H 24	0.9615	90.0	0.57	0.55			
-11年目	H 25	0.9246	90.0	0.95	0.88			
-10年目	H 26	0.8890	90.0	0.95	0.85			
-9年目	H 27	0.8548	90.0	4.0	3.4			
-8年目	H 28	0.8219	90.0	19	16			
-7年目	H 29	0.7903	90.0	20	16			
-6年目	H 30	0.7599	90.0	20	15			
-5年目	H 31	0.7307	90.0	29	21			
-4年目	H 32	0.7026	90.0	45	32			
-3年目	H 33	0.6756	90.0	47	32			
-2年目	H 34	0.6496	90.0	29	19			
-1年目	H 35	0.6246	90.0	9.7	6.1			
供用開始年次	H 36	0.6006	90.0			0.47	0.28	
1年目	H 37	0.5775	90.0			0.47	0.27	
2年目	H 38	0.5553	90.0			0.47	0.26	
3年目	H 39	0.5339	90.0			0.47	0.25	
4年目	H 40	0.5134	90.0			0.47	0.24	
5年目	H 41	0.4936	90.0			0.47	0.23	
6年目	H 42	0.4746	90.0			0.47	0.22	
7年目	H 43	0.4564	90.0			0.47	0.21	
8年目	H 44	0.4388	90.0			0.47	0.21	
9年目	H 45	0.4220	90.0			0.47	0.20	
10年目	H 46	0.4057	90.0			0.47	0.19	
11年目	H 47	0.3901	90.0			0.47	0.18	
12年目	H 48	0.3751	90.0			0.47	0.18	
13年目	H 49	0.3607	90.0			0.47	0.17	
14年目	H 50	0.3468	90.0			0.47	0.16	
15年目	H 51	0.3335	90.0			0.47	0.16	
16年目	H 52	0.3207	90.0			0.47	0.15	
17年目	H 53	0.3083	90.0			0.47	0.14	
18年目	H 54	0.2965	90.0			0.47	0.14	
19年目	H 55	0.2851	90.0			0.47	0.13	
20年目	H 56	0.2741	90.0			0.47	0.13	
21年目	H 57	0.2636	90.0			0.47	0.12	
22年目	H 58	0.2534	90.0			0.47	0.12	
23年目	H 59	0.2437	90.0			0.47	0.11	
24年目	H 60	0.2343	90.0			0.47	0.11	
25年目	H 61	0.2253	90.0			0.47	0.11	
26年目	H 62	0.2166	90.0			0.47	0.10	
27年目	H 63	0.2083	90.0			0.47	0.10	
28年目	H 64	0.2003	90.0			0.47	0.09	
29年目	H 65	0.1926	90.0			0.47	0.09	
30年目	H 66	0.1852	90.0			0.47	0.09	
31年目	H 67	0.1780	90.0			0.47	0.08	
32年目	H 68	0.1712	90.0			0.47	0.08	
33年目	H 69	0.1646	90.0			0.47	0.08	
34年目	H 70	0.1583	90.0			0.47	0.07	
35年目	H 71	0.1522	90.0			0.47	0.07	
36年目	H 72	0.1463	90.0			0.47	0.07	
37年目	H 73	0.1407	90.0			0.47	0.07	
38年目	H 74	0.1353	90.0			0.47	0.06	
39年目	H 75	0.1301	90.0			0.47	0.06	
40年目	H 76	0.1251	90.0			0.47	0.06	
41年目	H 77	0.1203	90.0			0.47	0.06	
42年目	H 78	0.1157	90.0			0.47	0.05	
43年目	H 79	0.1112	90.0			0.47	0.05	
44年目	H 80	0.1069	90.0			0.47	0.05	
45年目	H 81	0.1028	90.0			0.47	0.05	
46年目	H 82	0.0989	90.0			0.47	0.05	
47年目	H 83	0.0951	90.0			0.47	0.04	
48年目	H 84	0.0914	90.0			0.47	0.04	
49年目	H 85	0.0879	90.0	-71	-6.2	0.47	0.04	
合計					153	155	24	6.3

単純事業費計			224	24
--------	--	--	-----	----

注1) 事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

便益の現在価値算定表

箇所名：北谷拡幅

Table with columns for Year (Yearly), Annual (Base Year), Total Annual Increase Rate (Subtotal Block), Rate of Return (A), GDP Deflator (H23 90.0), Time Savings Benefit (Billion Yen), Cost Reduction Benefit (Billion Yen), Accident Reduction Benefit (Billion Yen), and Total Benefit (Billion Yen) with sub-columns for Car, Small Goods, General Goods, and Present Value calculations.